

風林火山

宮崎
県連
時報

●期日 平成 29 年 8 月 18 日 (金) ~ 20 日 (日) ●会場 山梨県甲府市小瀬スポーツ公園体育館
第 25 回全国中学生空手道選手権大会



8 月 17 日から 21 日までの 5 日間、山梨県甲府市でおこなわれた第 25 回全国中学生空手道選手権大会の視察に行ってきました。メンバーは佐藤彦空会長、藤枝孝明事務局長、長友富司雄氏 (今大会の副審判長)、熊谷嘉祐氏と旅行会社の工藤さんと私の 6 人です。まずは大会前日に大会会場の準備の様子を見にいきました。山梨県空連事務局の、土屋先生が忙しい中、たいへん丁寧に会場の隅々まで案内してくださいました。会場は宮崎市総合体育館とほぼ同じぐらいの広さ

でした。観覧席すべてに出場選手の名札を貼り、保護者は選手が不在の時だけ座れるような工夫をしていました。他にも狭い会場をうまく使用し、補助員にも負担がかからないような工夫が随所になされていました。また、事務の仕事で一番苦労した点など細かく説明していただき、とても参考になりました。今回の大会は山梨県甲府市ということで武田信玄を全面に押し出していました。キャッチフレーズが「風林火山」、ロゴマークは武田家の家紋、競技開始の合図も「ほら貝」を鳴らすなど、会場全体が戦国時代にタイムスリップしたような感じがしました。私は視察員ということで、会場内の至近距離から試合を観戦することができました。年々、技術が進歩する全中。そこで戦う宮崎の選手と監督はたいへん頑張っていました。たまたま今回は上位入賞することができませんでしたが、近い将来、必ずよい成績ができるように感じました。5 日間の大会期間中、夜は食事をしながら、視察メンバー全員で智恵を出し合って来年の全中宮崎大会の構想を考えました。そして来年の全体像は出来上がりました。これから理事会等で練



ってみなさんにも正式にお伝えすることができると思っています。こう御期待！最後になりますが、山梨でお世話になった皆様に心から感謝申し上げます。たいへんお世話になりました。来年は万全の準備をして宮崎で全中を開催したいと思います。そのためには県連会員全員が「未来を背負う小さな空手家のために」一枚岩になって頑張るしかありません。「為せば成る」です。
宮崎県空手道連盟理事長 河野和久



(第 89 号)
編集兼発行
宮崎市佐土原町
下那珂 1382-7
宮崎県空手道連盟
広報企画委員会
TEL/FAX 0985-73-7751



えひめ国体 選手決定!!



平成 29 年 10 月 7 日 (土) ~ 9 日 (月) 伊予三島運動公園体育館 (四国中央市)

- 監督** 【成年男子軽量級】 **松本 裕也** (宮崎県警察・新富和道会)
- 監督** 【成年男子中量級】 **新名 佑悟** (宮崎産業経営大学 3 年・至空塾)
- 佐藤** 【成年男子重量級】 **永島 誠也** (日章学園高校教諭・新富和道会)
- 伊藤** 【成年女子組手】 **八頭 司 歩** (宮崎産業経営大学 1 年)
- 織** 【少年男子組手】 **吉良 竜星** (宮崎第一高校 3 年)
- 織** 【少年女子組手】 **瀬戸口 文音** (宮崎第一高校 3 年)

平成 29 年度九州中学校体育大会第 13 回九州中学校空手道競技大会

平成 29 年 8 月 4 日 (金)・5 日 (土) 場所 熊本県立総合体育館

【男子個人組手】準優勝 **松本 剛大** 【男子団体組手】 **3 位** 富田中学校
【女子団体組手】 **3 位** 富田中学校

微笑四コマ漫画



第 90 話

後輩の為



作者：和Q

編集局長の日々笑進 ●第三笑● エッセイ 日々笑進 【難破船】

高校生時代の話です。英語の先生はその日たいへん機嫌が悪かった。先生が「SHIPWRECK」この意味を答えろと、のたまう。教室の前の席からあてられるが誰も答えられない。益々、先生の機嫌は悪くなってきた。次は俺の番だが準備はOK! しっかり辞書で調べた。「次!」先生は相当イラついている。俺は先生を挑発するようにゆっくりと立ち上がり、ひと呼吸おいて大きな声で答えた。「**難破船 (なんばせん)!**」「どうだ、先生、褒めてくれよ」俺は薄笑いを浮かべながら先生を見つめた。すると、先生の顔がだんだん真っ赤になって俺にこう叫んだ。「立っちょけ! バカタンが」「え、なんで」俺がキツネにつままれたような顔でキョトンとしていると先生は後ろの席の奴を指名した。するとそいつが冷静な声で「難破船です」と答えた。「そうよ。難破船よ。なにがわかりませんか、それもふてえ〜声で」先生の怒りはおさまらない。俺はあまりにもびっくりしすぎて声が出なかったが、クラスみんなに「はあ〜、俺も難破船って言ったがあ〜、ねえ〜、言ったがねえ〜」というようなリアクションを必死にとったがクラスみんなは見ても見ぬふりをしていた。先生が俺には答えられるはずがないと思っていたことが痛いほど伝わり、俺はとても悲しかった。あの日以来、俺の英語に対する気持ちは難破船のように漂流している。

